

ごみ減量化の推進を

問 ごみ袋有料化の先送りによる、ごみ減量の目標と減量に向けた取り組みはどうか。

答 2030年までに30%のごみ減量を目標とし、達成に向け市民運動として取り組む。

問 中遠クリーンセンターへの搬入手数料が改定され、令和4年度から値上げとなる。今後の施策への反映は。

答 今回の改定で市内事業者に対する分別指導や、減量対策に取り組む事業所の事例を紹介するなど、ごみ減量化と事業者の負担軽減につなげていく。また、草木・剪定枝の処分は、堆肥やマルチング材などへのリサイクルを行っている宇刈の八ヶ代造園へ持ち込んでもらおうと周知してきている。



草木・剪定枝の処分の様子

脱炭素社会への

取り組みは

問 電力の「地産地消」の発信と将来を担う子どもたちへのメッセージはどうか。

答 小学生が地球温暖化の仕組みや省エネなどを学び、各家庭でごみ減量や節電節水などに取り組む「アースキッズプログラム」を、市内全小学校に拡大するなど、体験を通して、環境意識の向上が図られる事業を実施していく。

子ども読書活動

推進の課題は

問 移動図書館で定期的に公園を回るなど、前に出る活動を計画するべきではないか。

答 子どもの読書環境の整備充実のため、図書館で利用者を持つだけでなく、人が集まる場所に出向く取り組みの具現化に向け、検討していく。

小学校の教科担任制の取り組みは

問 ICTを活用した遠隔合同授業の取り組みはどうか。

答 袋井中学校では、令和2年12月にICTを活用し、アメリカや中国など5カ国の日本小学校の子どもたちと、SDGsについて意見を交わす授業を行った。遠隔学習の効果や課題、手法について、今後も研究を進めていく。

市長マニフェスト達成のための方針は

問 市民とのタウンミーティングが重要ではないか。

答 可能な限り、地域や団体の皆さんが集まる会議に出席してきた。今後も、政策・施策の実現に向け、多様化・複雑化する市民ニーズにも的確に対応すべく、私の考えを自ら伝え、多様なニーズを聞き、市政運営に反映していく。



市民が集う青空図書館

タブレットを活用した新たな取り組み

袋井市議会では、議会改革や業務の効率化を図るため、タブレット端末機の各議員への貸与や無線LANによるインターネット環境の整備を行い、平成30年1月からペーパーレス会議を導入しました。

また、令和2年11月市議会定例会では、非常時には委員会をオンラインで開催できるよう条例を改正するとともに、同年度に市議会に関するウェブアンケートを市民対象に実施しました。本年度はタブレットを活用した取り組みとして、オンラインによる議員研修会の開催や市内子育て団体及び子育て世代との意見交換会を開催しました。

市内子育て団体及び子育て世代とのオンライン意見交換会の様子

